アムスメロンの2016年度初出荷式が30日、同市飯田町のJAしまね西いわみ地区本部飯田選果場であり、同市内や大阪市場に約600ケース（1ケース5キロ入り）が送り出された。出荷量は前年実績比2955ケース増の8万1千ケース、販売金額は同695万円増の2億1千万円を目指す。

旬以降の好天で順調に生育し、糖度は14度以上と最高の出来という。

式には、関係者約80人が出席し、同地区本部の橋本正嗣本部長が「緊張感を持って目標額突破に向け力を合わせよう」とあいさつ。この日は生産農家2人が持ち込み、選果場のスタッフが糖度センサー付き選果機で大きさごとに選別された果実を箱詰めした。

田原部会長(52)は、出荷がおおむね6月末まで続くとの見通しを示し、「大玉で糖度が高いのが特長。自信を持って売り込める」と話した。ピークの6月中旬には1日当たり6千ケースが出荷される。（渡部豪）

運搬船から市場へと運び込まれるクロマグロ＝境港市昭和町、境漁港

クロマグロ800匹 活気づく

境漁港で初水揚げ

境港市昭和町の境漁港で30日、クロマグロ約800匹が今年初めて水揚げされた。昨年より1日遅いものの、水揚げ量は25・4トン多い45トンだった。1匹当たりの平均重量は50～60キロと良型で、港は活気づいた。

この日は、水揚げされたばかりのクロマグロを大阪市内の百貨店に運んで販売し、PRした。31日午前11時から、漁港近くの境港水産物直売センター内のさんまき直売店で解体ショーと即売を行う。

境漁港を基地とする巻き網漁業者は、資源管理のため、漁獲量上限を1800トンとし、7月末で漁を打ち切ることを決めている。（高橋利明）

共和水産（境港市栄町）など2社の3隻が北陸沖の北部日本海で漁獲した。

午前7時ごろ、着岸した運搬船からクロマグロが手際よく運ばれた。競りを前にした式典では、関係者でつくる「境港天然本マグロPR推進協議会」の白須邦夫会長が「良型の天然ものを全国の皆さんに味わってもらいたい」と話し、三本締めで祝った。落札額は1キロ当たり平均1757円、最高値は2050円。昨年よりも平均は723円、最高値は850円下回った。

赤貝の稚貝をネットにつめる中海漁協の組合員＝松江市美保関町下宇部尾

稚貝を水槽で育てる人工種苗に重点を置き、担当者を1人増やして2人とし、1500万粒まで増やすまでにこぎ着けた。今季、稚貝の約8割が人工種苗という。

産業として成り立つ可能性が見えてきた」と期待。渡部巧組合長(65)は「年末

安全宣言1

「第42回黄色
賛を得て「子ど
ょう」をスロー
その一環として
「わが社・団体

「安心と愉しさ」をご提供し
「安全・安心」をアピール

私たちSUBARUは、お客様に提供できる価値の中心に「安心と愉しさ」を据えました。「愉しさ」は「安心」によって支えられるものであり、両者は切り離せないものです。「安心」は安全という機能だけではなく、SUBARUというブランドに対する信頼感があって初めて成立するもの。JNCAP予防安全性能評価試験では、アイサイトが評価され、スバルの評価車

種すべ
さ」は運
ことの
味して
「安全・安
さらに
などを
来」を目

山陰
〒689-